

• 0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 1 2 3 4 5 6 7 8 9 20 1 2 3 4 5 6 7



横濱開港見聞誌
中



門號 4230
卷 2



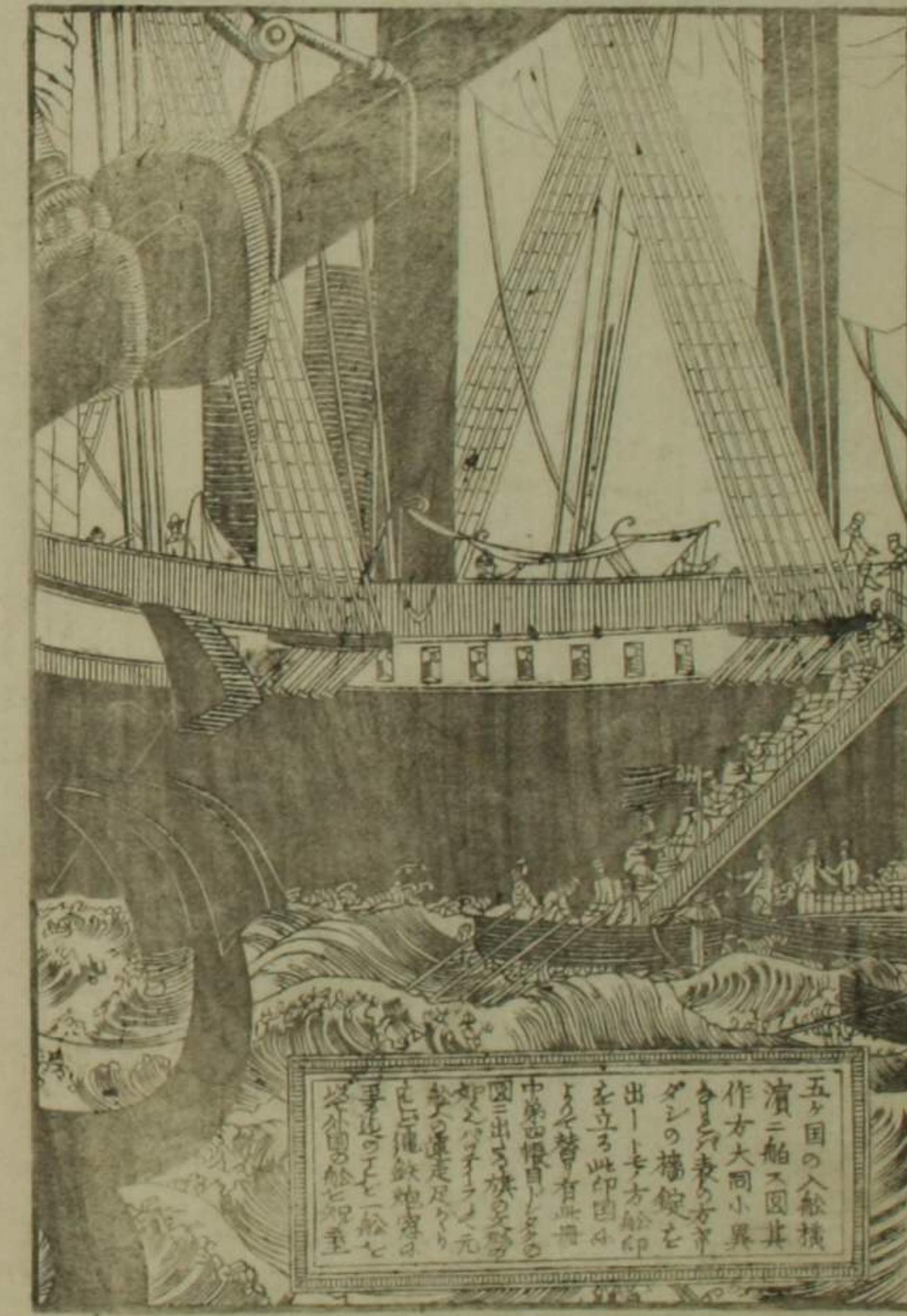
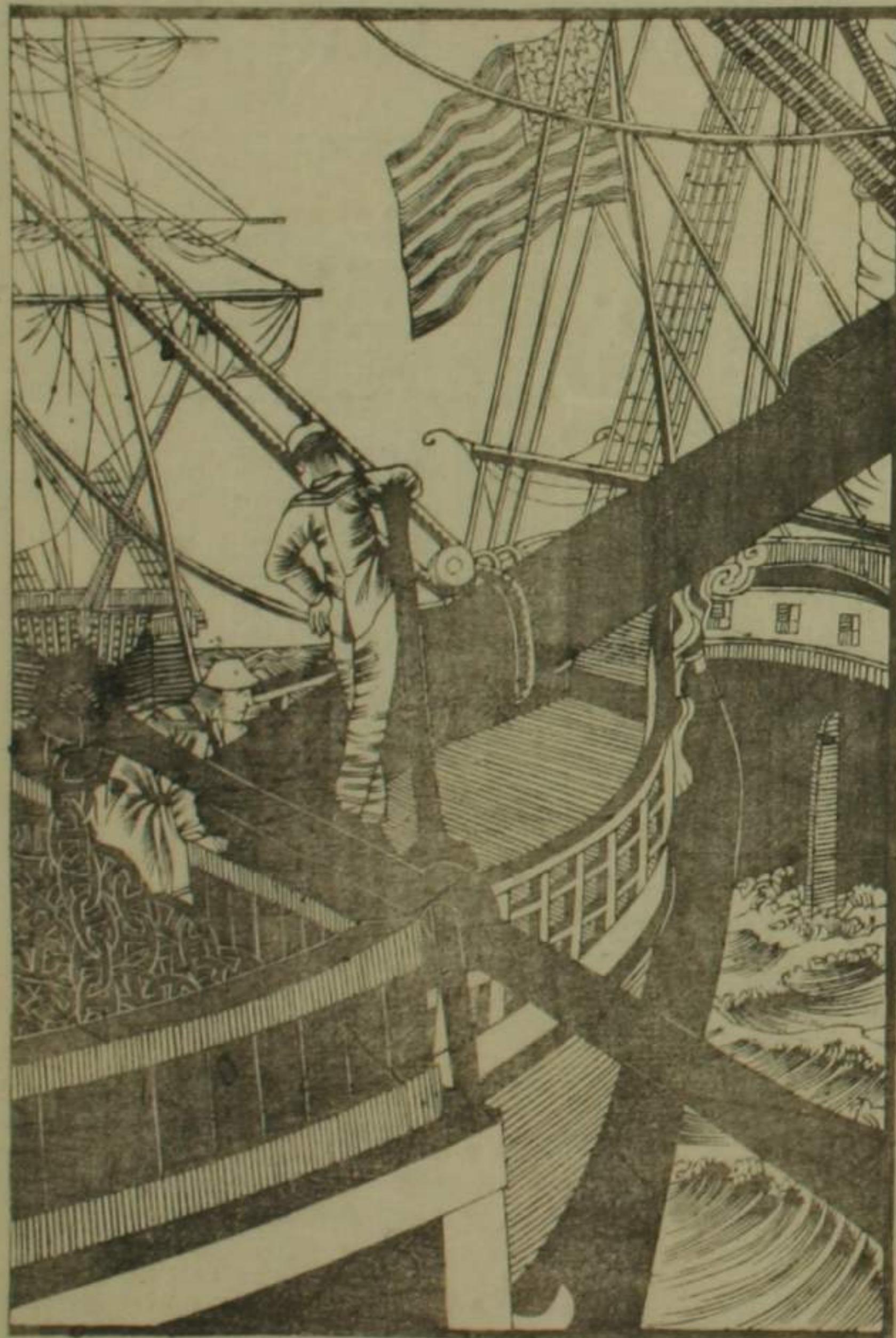
横濱文庫公先ふ初編冊中ふ本町の商家其大通り又新道又大見世の内
と署シ出版を今此二編ふ選出せハ交易所入船の五ヶ国其大洋セ衆越未だ
商異船の圖を以て初めモ次て休日之遊樂種々の有様共て異人商館の為或
ハ飯時酒宴賣買書画擊玉歌舞音曲連行走馬車馬波戸場ふ至りてハ
荷物水揚之賑ひ阿蘭陀の寺院商館臺所ひ黒人の沸卉是又署國旗
出来幸と其異人町並モ見渡セ所有基壇所道具飯盤其外見る處の形を掌一
異人又女性小兒ふ至りて其衣種々有ヒ此編中其一二を出セ余ハ三編四編
と段々小編を以て新渡来新御開地の景色をつゝみ至り商館の如しき
も沿河町とあり海も陸とも此港ふ積入の金銀萬宝無量の藏入太交易場
何ぞ三の小冊ふ写一留得んや自然編を吹き微細み至る

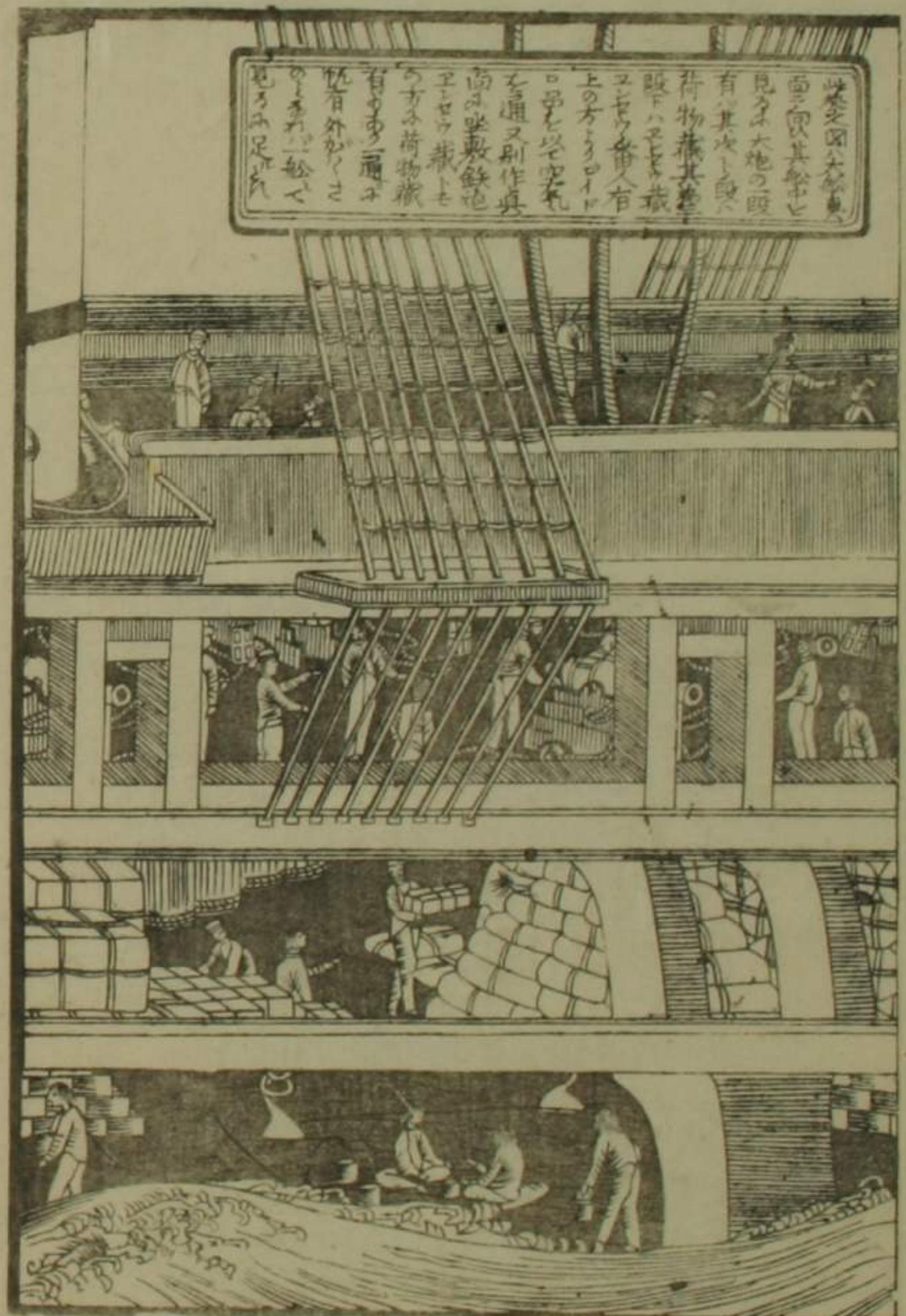
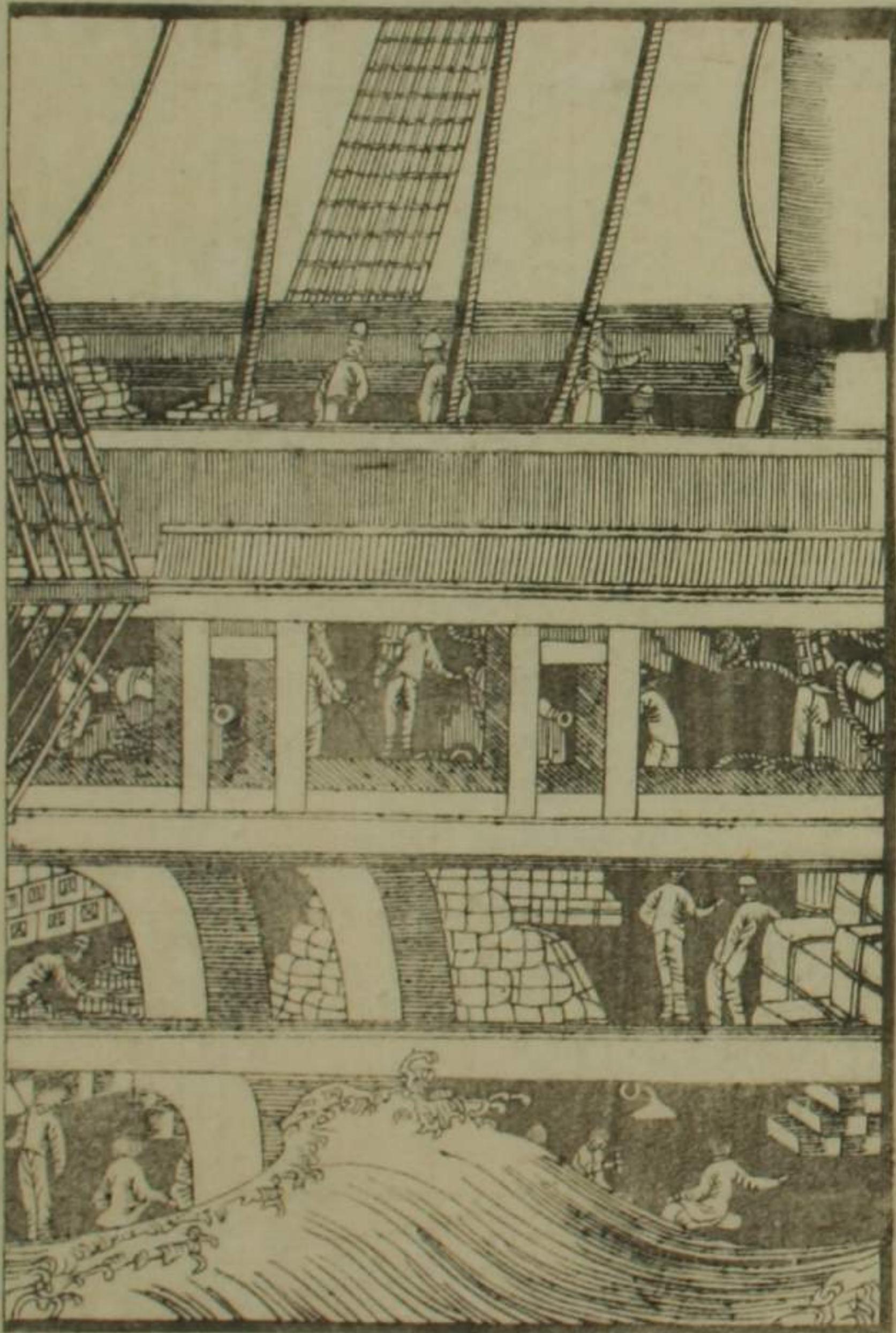
文久二戌年春

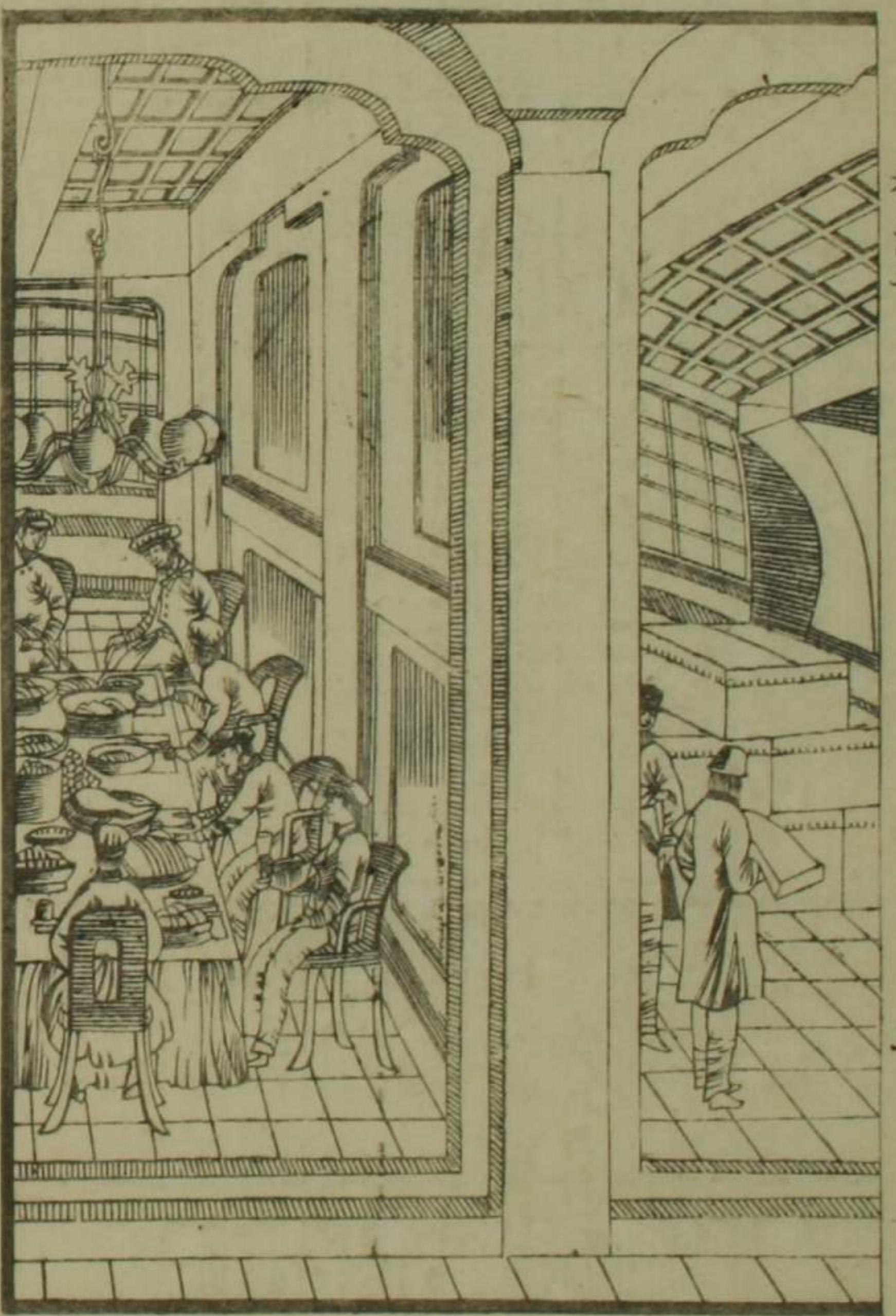
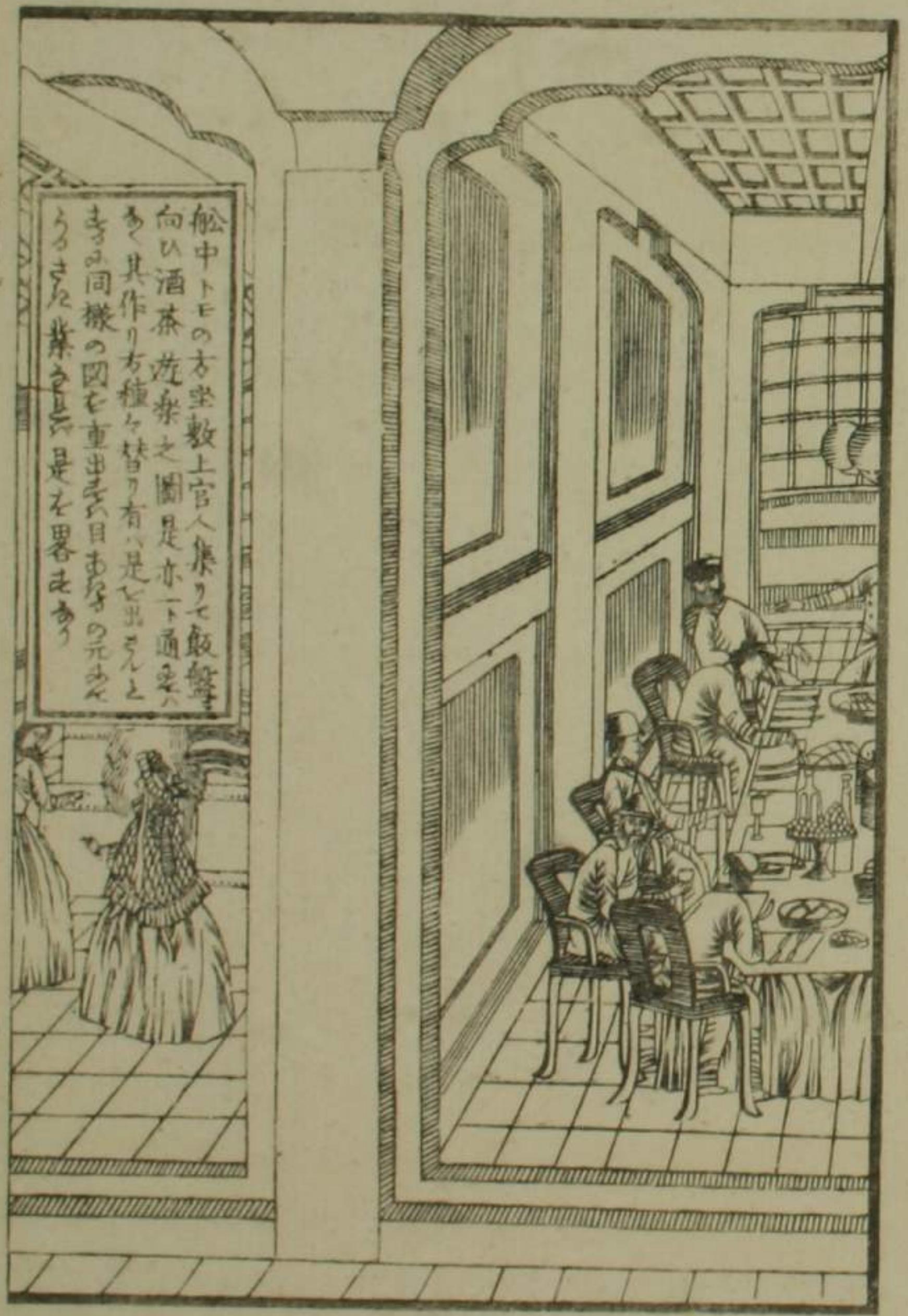
橋本玉蘭齋誌

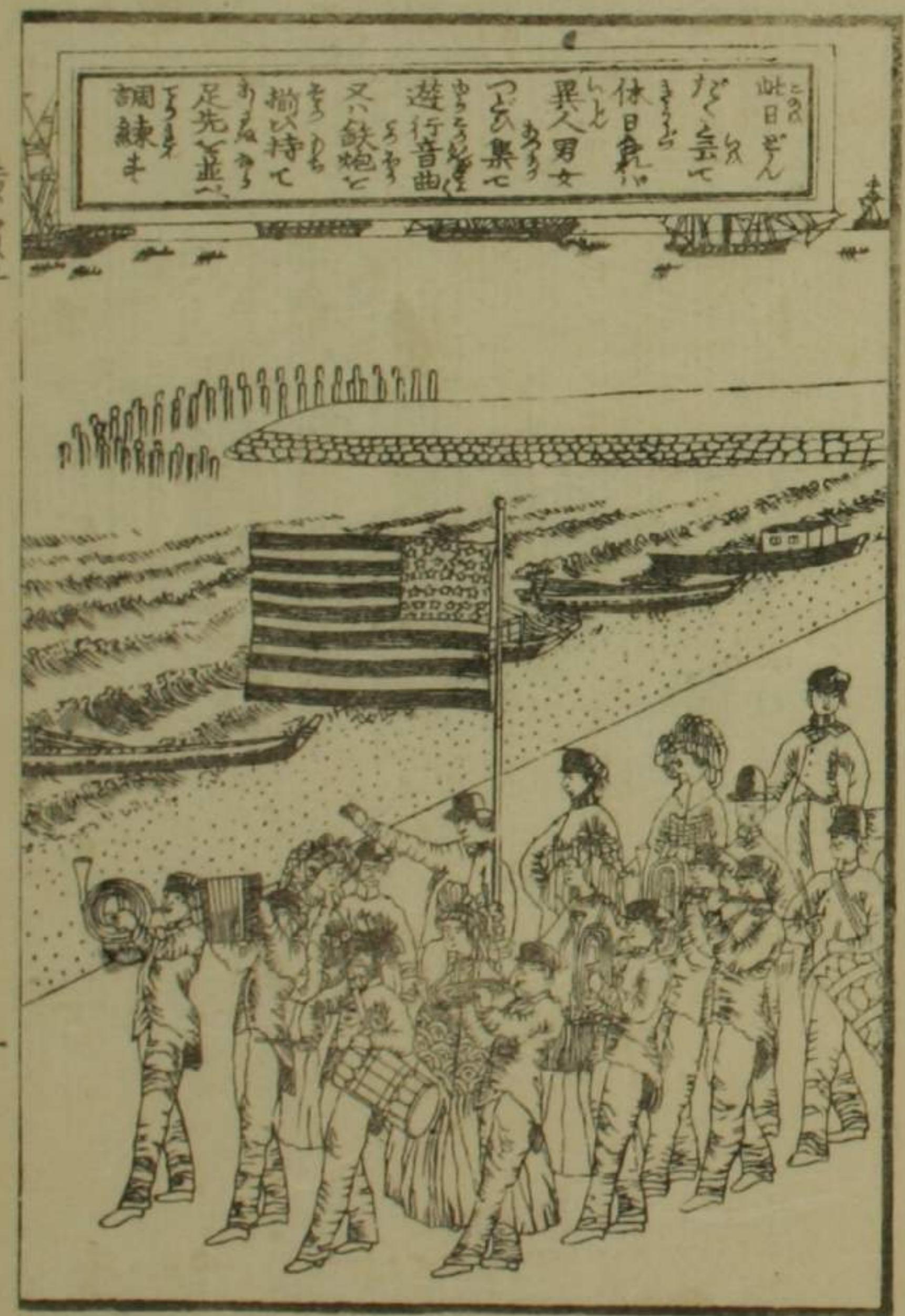
黄賓二

昭和三十一年
一月十八日
警示

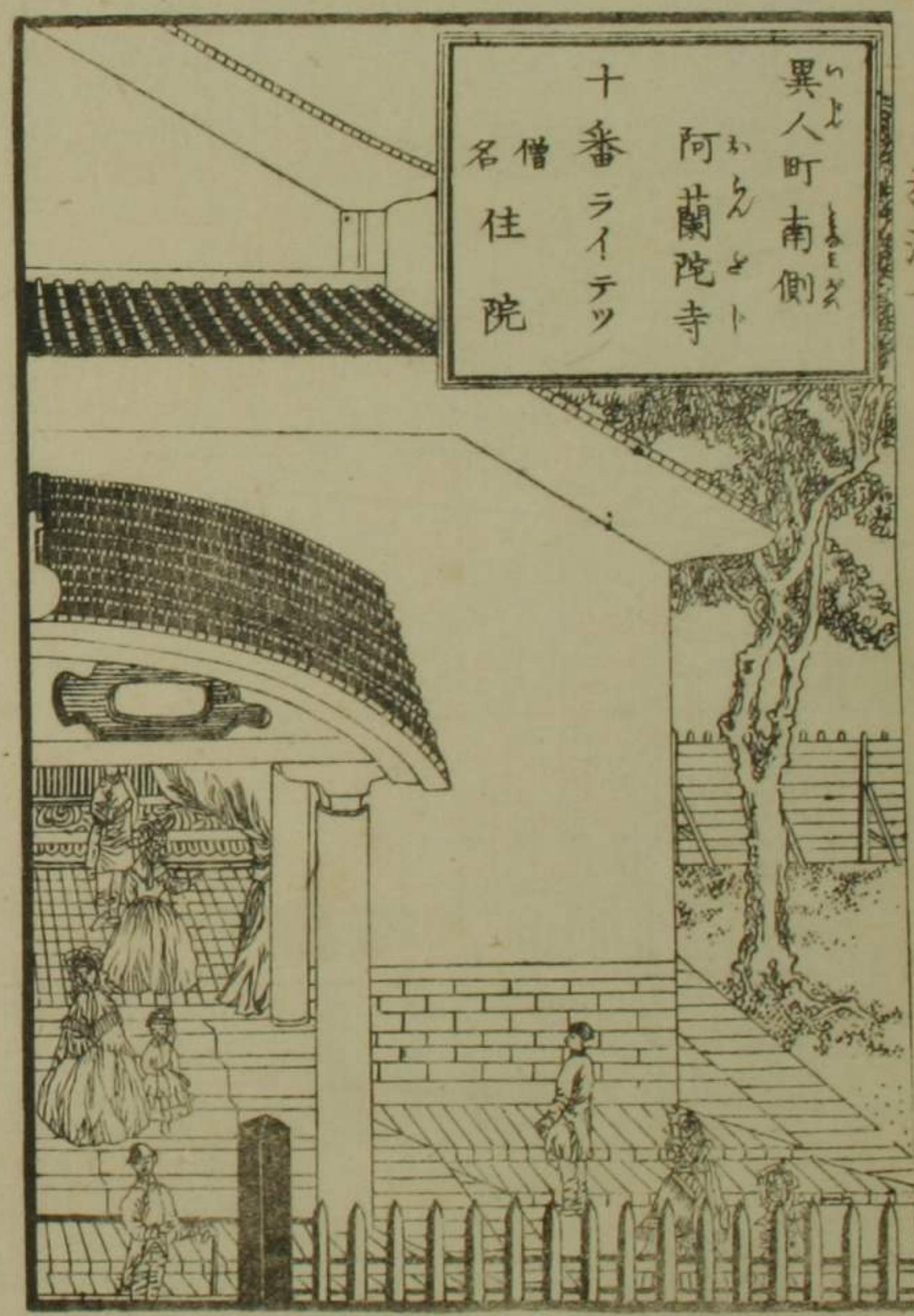
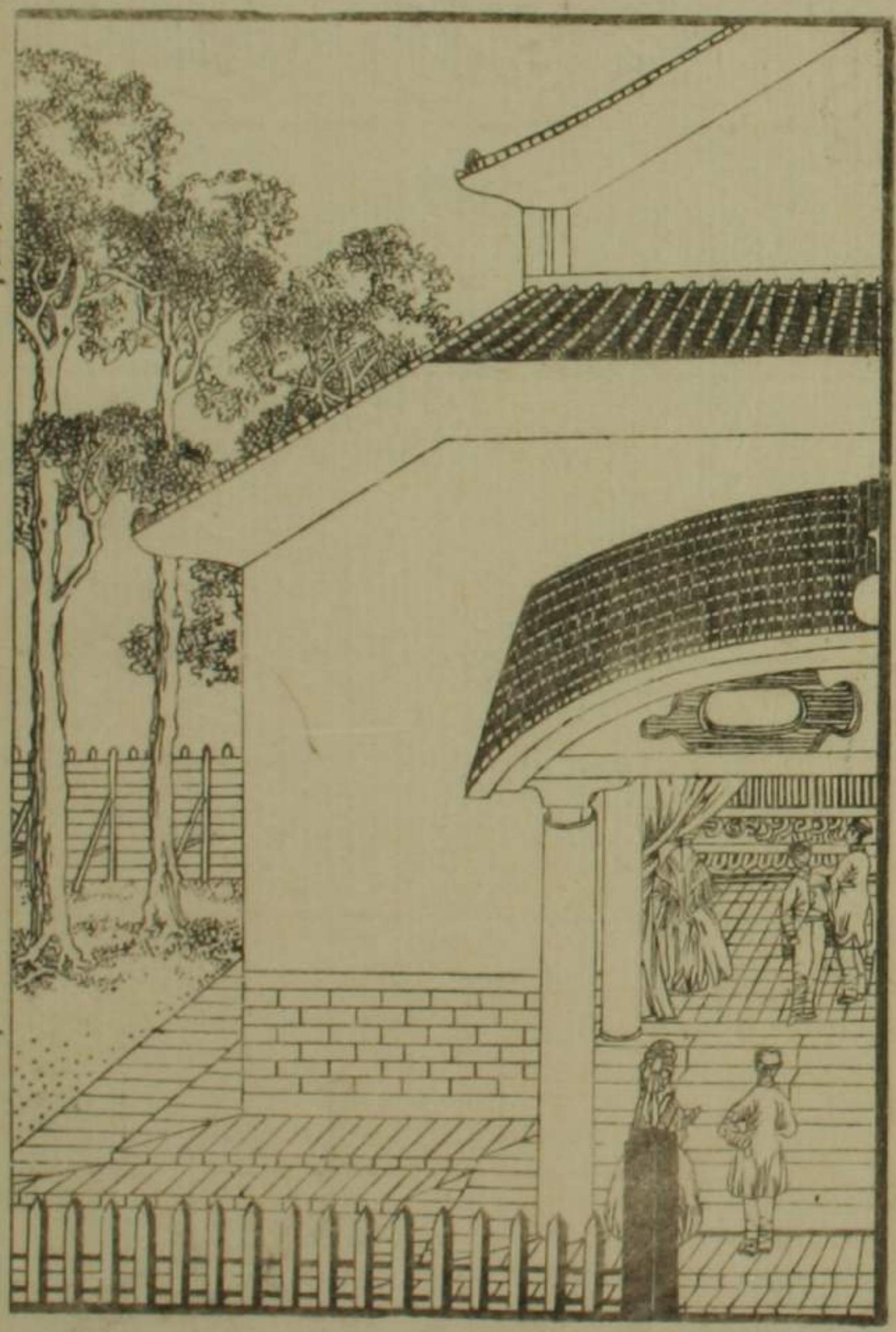




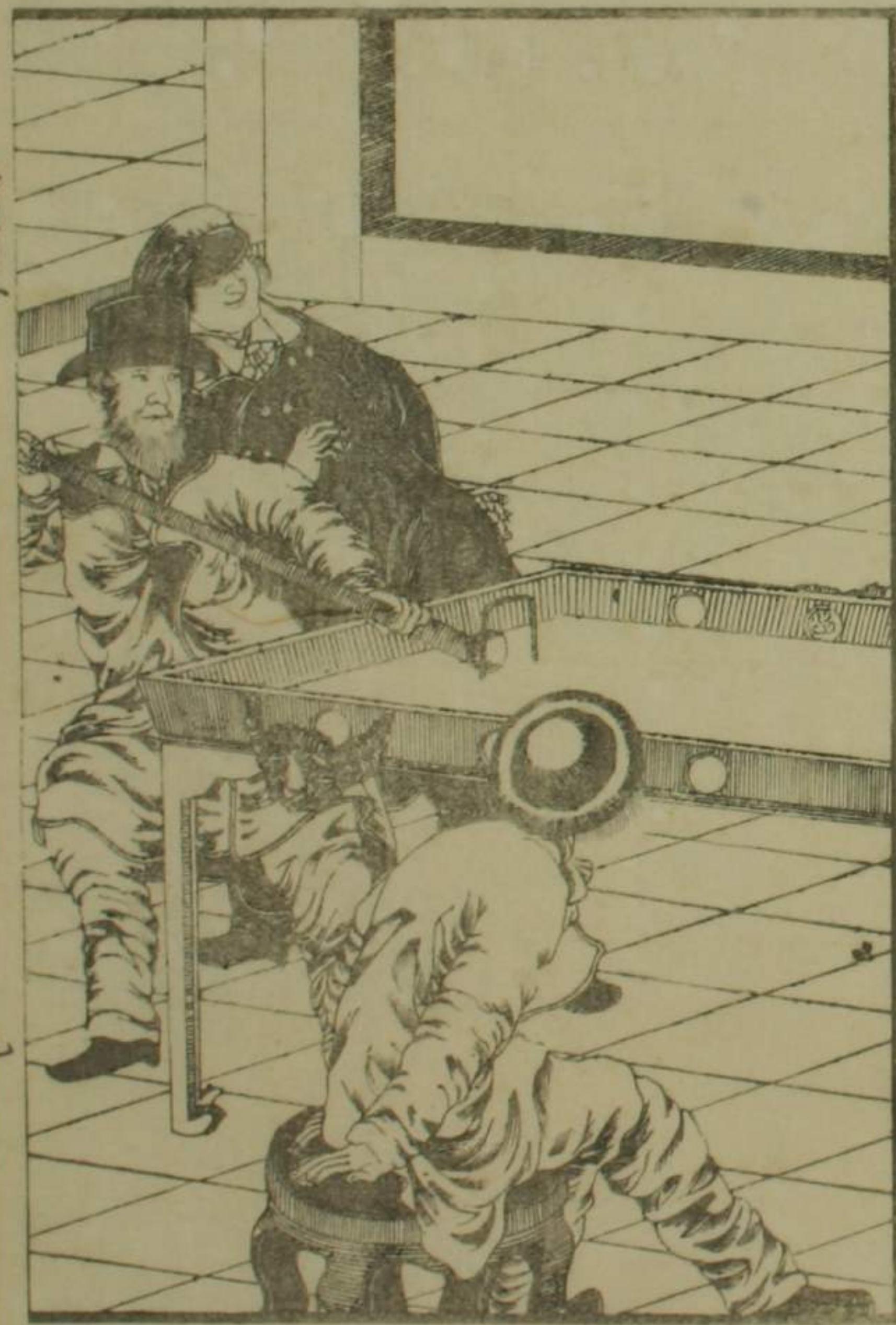




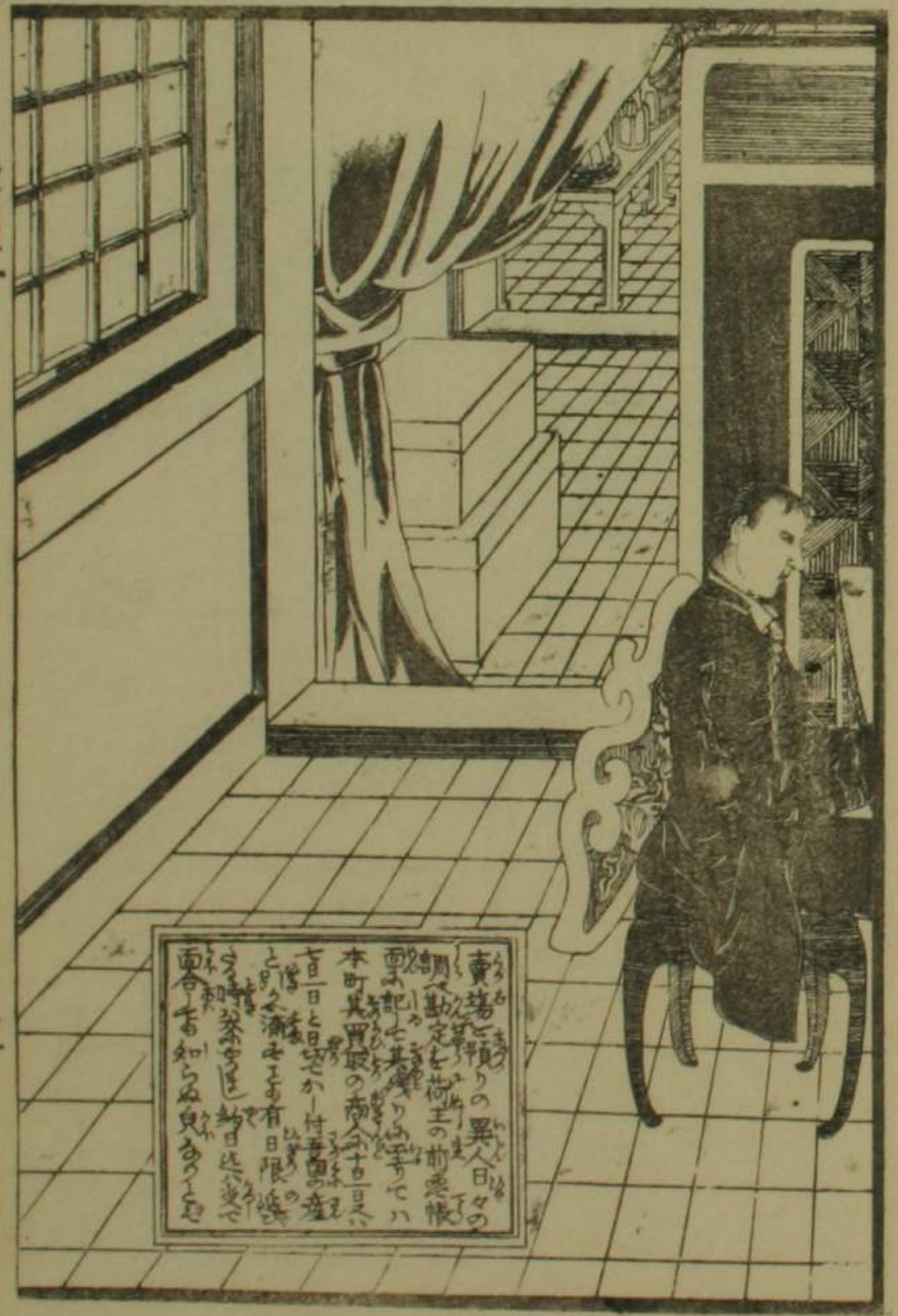




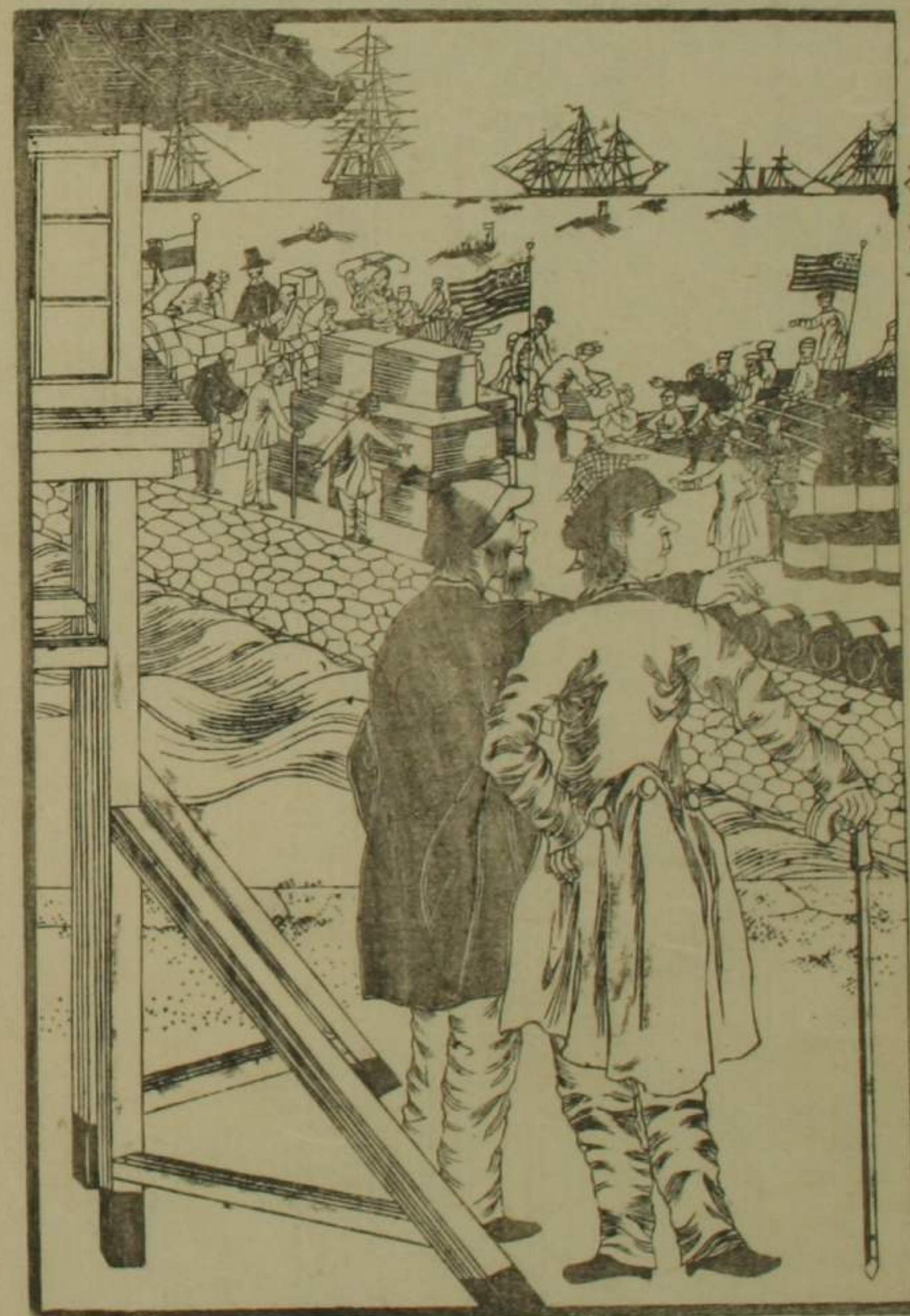
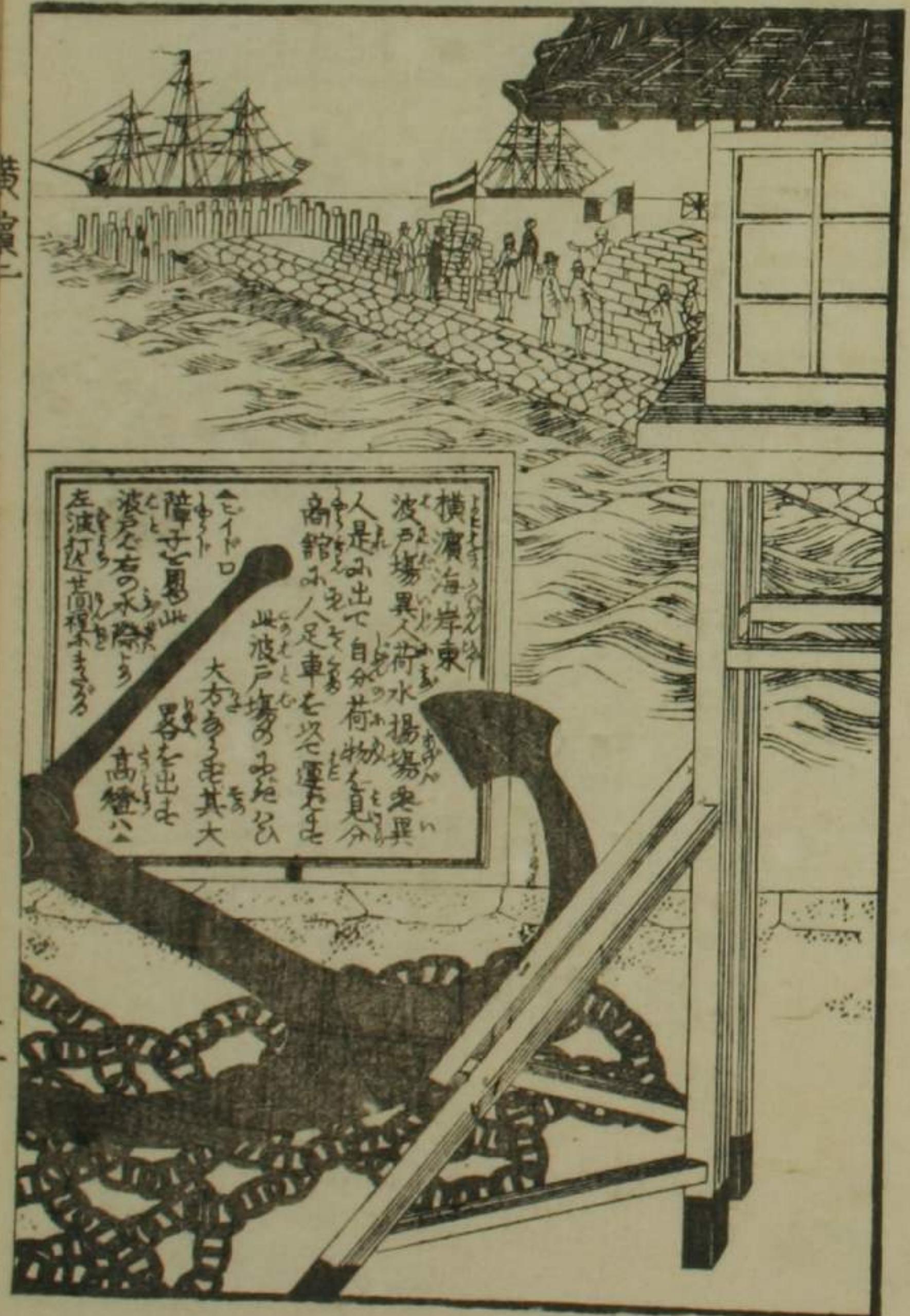
















間少く離れ太鼓打ひ
其里ちよしの處に太鼓打ひ
是男女紀生を一同手柏子七
揃足の少廻一と揃て多くと
廻る何うてあるかと見あれば
其國ふ有工て思へば向う小
今日ぞ之を踊るあと夢



横濱渡来の異人集りて
港寄町老七月盆踊を大見
物入る時異人走り行
是を見き其清辰日貞秀本聖
用東あゆく此日行一時波鳴
港寄町のどく九く立並びそ



横濱渡来の異人商館町右左より向ひ合て門有青色又ハ綠青黒色ハ多
く見ゆるありみる其色を覺ゆる或ハ又石藏を以て門つ左右ある又門内柱
表札あり英國士官洋行あぞ書付あり又亞黑士利加三千二番名字名乗ト此ど番
付などある館内多大多く最も其種類多し時よりい日用出入見ゆ
有商人零も時ときをかま付んらをねひそ飛来るみ本町見世の使の者胆
そも弟せ逃るも此犬はく右のよくあ是其犬の主人小武砲を以と
打立まをあり其犬の種ハ若三編め出まを又屋敷内ふ羅紗縫とり室
況りつよどむひ居あら能人ふ意とさざるなり人種も又多く皆の五ヶ国人
種みう候よ近くへ南京廣東福建兩州の人天竺シロソ又南海中シヤワス
西洋亞比利加人是種多異人みやとく船中のそよと絹用ゆ水を入ての魚の
ごくみ歎てもあり実ふらをよくこ然より事替りあると毛をより商館出
来上りう表通り道みん上りて小石を敷す處へ外商館へ行車此如來
う車を止めて積十方荷物をそよてかみ何んと考此館の下異人道番み

枝をつたまゝ有し。此有あるを見て大いに怒りの面色つるあり。土く
車引をすんと車引大らかにすすむ仕形をほし。荷物をひけ行あと。そ
車を引ぬ。又かばげ行べ道そんじ。とえども異人間入まし。荷物のま
早引行。此處み車うぞをほんとあさきあり。早くに行ては生人のもの
とたんと枝うへて面色朱のとく。髪左右みうどく。足をまじし。白眼い
たるみ車人うりを残り。方荷のまく。此小石の中を車引ひ。良せし。
行えふ。あと残異人へづく見ゆ。不思ひ。身後追をひ。と思ふ。あ
二本筋中。前つどく。直らむ。ふ異人平氣。面色を有。どろく。又々
木の植木をつたる。大車を引来り。まよそと。り。有ある。枝う。ま
いを。荷物うを手をみ。わざと差國。急を。自今も
車の後。まちうて。かるをへ。うき。声を出。と。共ふ。押せ。車人。と。ひ。意。列
々と。まんみ。引行。多異人。車を急。心地。立。道筋。つゞく。見方。腰

と面をあらわん。ぐる。体う。と。最も。う。道へ。く。土のとね。上り。小石。ハ。飛
ち。前。の。車。共。四。筋。の。う。と。金。少。ん。がん。ご。と。う。ん。此。て。み。石。事
督。り。有。ア。蘭。院。賣。場。め。至。且。十八。九。間。の。下。む。の。う。藏。の。と。立。方。中。
蘭。産。の。品。物。う。べ。あ。其。入。ロ。ニ。町。か。て。中。ハ。一。面。の。廣。長。あ。り。九。木。つ。る。ま
う。内。蘭。人。枝。を。め。回。る。工。三。四。人。是。ハ。吾。国。の。万。リ。き。宣。ん。と。欲。防。ぐ。の
番。人。と。同。く。う。ん。正。面。み。高。く。か。け。る。儂。う。の。物。あ。り。或。ひ。く。又。ハ。角。引
の。中。み。あ。り。是。ハ。地。球。の。図。み。て。昔。ハ。球。う。の。内。み。あ。り。近。未。ハ。七。世。物。の。中。
下。筋。さ。と。左。右。ひ。ま。一。子。枚。小。見。る。の。図。多。一。其。内。ふ。五。大。州。あ。リ。第一。亞。細
亞。第。二。歐。避。巴。弟。三。亞。弗。利。加。第。四。北。南。亞。里。利。加。巨。成。銅。板。ゆ。考。た。ら。あ。り
近。く。ハ。石。板。あ。り。又。蘭。書。も。多。く。重。又。赤。色。の。毛。織。あ。また。青。色。錦。茶。又。種。々
の。花。模。様。有。バ。美。成。鳴。物。あ。リ。ビ。イ。ド。ロ。品。ハ。八。面。を。う。一。か。す。ま。金。ユ。エ。リ
て。四。方。を。や。せ。実。ふ。目。を。う。な。う。の。有。様。ゆ。て。言。ふ。ぐ。だ。と。此。が。う。

付すを申までの候海岸也東西み水揚の波戸場あり其中央より御運
上所御屋舗前廣大にて四方と拂ひ威儀嚴重みてとんと打ふる波の
音ハドミとあすと空ひきづる鳥の声ハ笙シロマタシムアヒ真モト日本國
第一の大湊あり御運上所と尊モジを有ス此波戸場の東の方異人諸の荷
物を水揚の場也其ゆゑりき吾國の人異人入交り數々シテ山の如く積上
方荷物の大車の運送ハ切にもさむを商館カニヤみ運びタク番所より是を
見張りうせたあとは吾國異國のようもやきからぬさんぞ勢ひあれば誰
一人よれむ者あるを有ス一西の方波戸場へ江戸積送りの荷物水揚場の
是又其込合モジへきと數十の車を其出張モジ合モジ合車力の声
音ハ天地アツマツめどろとまきあき又商館二階下をみぢどろ障子モジをめぐらし
其内モジ女異人美色の衣紋此モジどろみうて美事あり又モジどろの簾モジ
外人門内モジ入モジうけ見物せと奥の方モジと行至モジ黑人南京モジと見
主モジ日玉モジを手モジ捧モジ壳モジ持モジ打モジひモジ又本町通り商館町モジ大通モジ
東モジ方町モジ横モジ大川モジの端モジ者モジ是モジ御方吉田モジ橋モジ港寄モジ町モジ南モジ流モジ
横濱本村町モジ横濱新田今数万坪モジ築立モジ新地の間モジ流モジ本村橋
谷町橋モジ告モジ海モジ入モジ其名大岡新川モジとモジ此本町通り異商館中程モジ至モジ
石モジ方モジ阿蘭陀寺モジ住僧モジライテット云阿蘭陀十番モジ本堂モジ右
正面モジ繪モジ如モジ走後モジ方モジ九堂モジ至モジ白壁モジ是等ハセキモジ
商館モジ右モジ老モジ少モジ作モジ異人モジ休日モジ是をモジんモジとモジく
賣買モジ止モジ自分勝手モジ次第馬モジ川モジ寄モジ大師モジ泰モジふ考モジ富士モジ保土モジ谷
の方モジ行モジ數人モジ集モジ連行モジ男女交モジ最モジ美事モジ又モジ又モジ打モジ

堂モジごくふて白壁モジ門口モジ館モジ前モジ數多モジ諸木モジ植込モジ門外モジ旅人
を此横濱モジ廻モジ来モジ異人モジ商館モジ見物モジ人モジ往モジ之
横濱モジ内モジ商人モジ鑑モジ札モジ渡モジ其札モジ者モジ門内モジ金モジ人モジ無
外人門内モジ入モジ見物モジ奥モジ行モジ黑人南京モジ見
主モジ日玉モジ手モジ捧モジ壳モジ持モジ打モジひモジ又本町通り商館町モジ大通モジ
東モジ方町モジ横モジ大川モジ端モジ者モジ是モジ御方吉田モジ橋モジ港寄モジ町モジ南モジ流モジ
横濱本村町モジ横濱新田今数万坪モジ築立モジ新地の間モジ流モジ本村橋
谷町橋モジ告モジ海モジ入モジ其名大岡新川モジとモジ此本町通り異商館中程モジ至モジ
石モジ方モジ阿蘭陀寺モジ住僧モジライテット云阿蘭陀十番モジ本堂モジ右
正面モジ繪モジ如モジ走後モジ方モジ九堂モジ至モジ白壁モジ是等ハセキモジ
商館モジ右モジ老モジ少モジ作モジ異人モジ休日モジ是をモジんモジとモジく
賣買モジ止モジ自分勝手モジ次第馬モジ川モジ寄モジ大師モジ泰モジふ考モジ富士モジ保土モジ谷
の方モジ行モジ數人モジ集モジ連行モジ男女交モジ最モジ美事モジ又モジ又モジ打モジ

とく戯（さか）もあり、団中（だんちう）みこと（みこと）されば、此文（このぶん）み畧（みはらし）まきうせん（せん）の日（ひ）ハ商館（しょうかん）をも
旗（はた）を立（たて）船印（ふねいん）と同ト波戸場（はとばう）み出て見渡（みわたす）。海上（かいじょう）も船（ふな）を處（おとこ）の帆綱（はんじょう）み小旗（こはた）
を數多付（多くつ）。その方（そのがた）又大旗（おほひたけ）を立（たて）船中（ふななか）の異人（いじん）。此日陸（りく）み来りて遊行（ゆぎやう）。港崎（こうざき）
町（まち）の遊女（ゆうめい）を初め茶屋（ぢや）の娘（むすめ）を七月盆中（しちがつぼんちゆう）踊り成（なまつ）。仲（なか）の町（まち）みあらそ
一同（いつしやう）をすきる衣（い）を以て白き手拭（てぬぐ）を若き娘（むすめ）を頬（ほほ）をもつて或（も）へそち卷（まき）又ハ
ありふれもとひ手（て）の團扇（だんせん）を立てて手舞（てまい）足（あし）波捕（はまつ）と歌舞（かぶ）をきすみ
見物入（みものいり）の山（さん）をききう異人（いじん）ハ元より黒人（くろじん）又ハ南京人（なんきんじん）ハ常（つね）みよ踊る（おどる）。毎
夜（よ）との巷（きょう）寄（よど）町（まち）み来りて是（これ）を見物（みもの）。山（さん）思ひ（おもひ）や後（あと）あらう波
をさく頭（かしら）をう廻（まわ）。兩手（りょうて）をあわて踊り込（のむ）。月中（げつちゆう）あわて止まつてゐ
舟合（ふなあわせ）ハ大（おお）きんとく定（じょう）きのとく勝手（かつて）ふ遊樂（ゆうらく）。とるより波戸場（はとばう）
の廣き所（ひろひろのところ）。其音（おと）ふつとく何せ（なんせい）。声（こゑ）をもつて一同（いつしやう）踊りとく盆（ぼん）を打（うち）。
あれど又異州（いしゆ）みあるとく者（もの）。手先足元（てさきあしもと）と揃ひる。とまつてゆく南京人（なんきんじん）

身（み）も軽く（軽く）踊（おど）りの品（ひん）もよく美事（みこと）。未元來（えんらい）。月月初め八日又大（おお）き
とを今ハ四日又みせん（せん）。あは是（これ）みよそ大（おお）やくたくとくの為（ため）。とふ休日（くいじつ）ハよの
てく老商（ろうしょう）日（ひ）ハねだん（だん）でよく働き実（じつ）定（じょう）めとあして風俗（ふうぞく）。黒人（くろじん）ハ本町
又ハ神奈川（かながわ）辺（へん）。使（つか）其形頭（かげずし）ゆへ巾（きん）と巻（まき）付（つ）ると成（な）らん。日本（にほん）ちを
やの紺（こん）麻（ま）の紺（こん）。手（て）又紫（し）の手（て）綱深（つなふか）。んどを奉（まつ）。奉（まつ）を何（なん）よううのよろとび（とび）とせ異兩
物（もの）。黑濯紺（くろぬきこん）。後（あと）あたたき金具（きんぐ）。留（とど）る羽織（はおり）。又ハ海老色（えびいろ）。ゴロフクリン。毛
呉（ごう）。同裝束（どうそうぞく）。なるき。大（おお）風流（ふうりゅう）。心（こころ）からしと見ゆ。あまた面紺（おもてあわせこん）。ハ五ヶ国
あふ隠（かづか）。あめいへよく美事（みこと）。みよそ付（つけ）作り。もつ人（ひと）。あつ又少（すくな）てもあくて黒毛頭（くろけいとう）
み有（あつ）。冠物（くわんもの）の真下（ましも）。あくび。所ハ三分（さんぶん）。やどふともみ取（と）。もあり。其衣服（いふく）裏
の日（ひ）も春（はる）も冬（ふゆ）もさのと替（か）ふ。ゆうき。女性（じょせい）。見ゆ。頭（かしら）上（うえ）。色（いろ）の
巾（きん）を以てうき。笠（かさ）の上（うえ）を包（い）。もくして後（あと）下（くだ）。冠（くわん）。あう美事（みこと）。身中（みちゆう）の細

りもて笠の裏ふ付頬よりのどくゆて頤の下多くむきひ長くまづなま
かみ着も廣巾へ色糸み花鳥の類を織出へるあり又黒色青色と打
けしる組糸ゆきあぐの模様を組る細のどを用ひ是ハ夏の衣う
腰から足首をうちの衣是へ下廣大と圓みあるべくあり最も
とくわくわく付に其細きと見思ひゆうきふ又とも巻の物ゆり下の方腰
ゆくわく付乳の下胸を大ふ開き是又美事ある物あり雨中ゆき南
京風の八本骨金を用ひ中ふ由亞墨利加人三三番ウエンリイトある人
日本風薄單細き蛇の目傘と用ひ是日さんちう笠を用ひ又本町通り中程
阿蘭陀寺より近く右の並み英國十四番イリムストン商館ハ其屋根の上
み又小サキ坐敷あそ四方障子とみだら用ひ是も異形多作方と
見立る其國へ前み出せ運上所の後と商館町の間一丁ケ内を駒形町と云
左の久町家ゆくて唐物見世又ハ酒見世をどぞ其向右側へ異人屋敷亞墨
利二十五番シヨマハ女性多く画図をすみ油をりて是元来西洋風

あり異人とゞも其年若き男子み女とくも美男あれとくも其性奇く
多く物づふ丁寧あり有を見る時へ國元ゆく大福長者の男子と思ひ
女性えぞも是みをりて最面色惣駄美く吾国人とも替ることな有
とも眼中み至りて玉の色浅黄あり有玉の色黒茶色宜どももの色黃赤
あり魯西亞阿蘭陀佛蘭西ハ鼻高く眼深一身大長く大き人多
ア墨利加人ハ日本小同人多々又工さみりまたよきハ異船入津のとて大炮を
打ち其音海陸一面みれり渡りもを多く有アバッティラ舟客異人波戸
場ふ上り三段み下りて其身がまえ足の先をそくに運上所小人新波未と届
多めと思ひ全巻有巾を頭ふ置マ袖ハ赤色下ハ白色腰より足首を
赤糸を筋ぬひ有是ハ其國より付来る軍官人多大勢揃ひ次第に
美事ありさて船中兜へ枕をなまろぞそまむたまむの異人細そと登り
數丈の上を車の個をかは是と置て下ふくら時へ一本綱み取付多くと中央
まで右み走り下り又前のどく左りみ走り下る船の手ようと思ひる中程より

手まきの傍下みきうち小舟にての荷物を大船の中へ積入仕舞て又此足がりを
さう網を前のそく引揚置あり此大船の内三段四段と其大きさあ付て替りあり
前の岡中其次第も此文のみ墨を船の作り方太さハ洋中の國銅板のみ
たる紙見るハ大波のみ乗入るハ実ふ湖水のみ葉の下に入らば左右の打とま子
大波を打上りハ山の峯のみ船あるビ大船さむよ坂のぐく此時中み坐
居るてあらぞ天井より銅の袋を四方み付其内み長く成て宿船大み横向と云
とも袋は真直み有ハ其身をとよとよと横濱港の咄トア南京使ひ行
用の品を求め來る紙見るハ中も鴨あらの類三四羽をこうした包装脊かひ
又ハ引下げ主其身一頭をもて月をきら付若此鳥あらモ甚心ちよげ
道具と
是行る又日の飯時奥の坐敷此家内集そま革をもみ三道具と
物を一紙の上み並べ置是蘭人レイルマツスホルク是アリ「レイル」ハビのどく
ノリハ小刀「ホル」ハ諸肉さゝ 飯物ハ常用第一バント云吾国のもんぢう
う先の粉あ玉子をもよね合せボタルを揚ちありホタルハ牛の油へ玉子ハ

食す人もあり是を大きらのそくきとニ定用うる事無入且て有其外アタ揚小
鳥の丸焼歎肉ねぎ大根の巻などしく料理て器より分て又二重み作り
高杯のそくあり蒲萄又ハ柿とあんなどの類を置く唐土モ飯前茶飯後の菓
子そくは来るの風を見あらひ後南京人ハ又茎をも向ひ多自分道の者
を置其次みレインブル第一小飯を盛り其外魚鳥のたる大根の巻蓮根野さ
いも残ら未用せりがくとき時ハレインブルを飯み茶をみてさくとからだあ
ま吾国も替るエモー黒人ハ又牛の肉をもてて其身をも粉を入れて酒を
多く焼酎ヘ其國もよくて木の実をも食し合其一名を付する品多く最も美味
きもあリ阿蘭陀葡萄酒小アラキシナダなど一名の品あり酒器其外菓子盆
又ハ諸食品多く硝子製多一其名をもたれ物也「ボルアル」カラツカデリン
ベッケルボルダーフテ「リンセウエインガラス」ワットルカラス「ヒールカラス」ソウビイカラス

ケルキヒフレス此品其賣場（もどりや）ふも出（で）て數多（あまた）あり。今時大用の蘭人（らんじん）ハ又ち
生々（まごと）自分食（く）する物（もの）外（ほか）ハ食（く）ま（ま）し。ヨリテ吾國の蛸鳥賊（さざなわぞく）丸うの類
を見（み）。されば食（く）をあひて手（て）をあは是をきりの類多く又蘭人（らんじん）ハパンを製（せい）ま
小麥（こむぎ）甘酒（あまざけ）を入（いれ）てねり（ねり）をあたひめ。其名付（つけ）るもちづひあり。とくに成
プロフト（プロフト）とのふあり。此外又種々のトキイ（ときい）とくとも此冊子丁數の定め
あり。余ハ又三編不^{（ハ）}あらず。此處ふ華を納む。

橋本玉蘭齋誌
五雲亭貞秀画圖

横濱文庫二編終

